

今日のトピック 資源価格の動向

原油は産油国の減産、銅は中国の景気がカギ

**ポイント1 原油は30ドル前後で推移
当面供給過剰が続くそう**

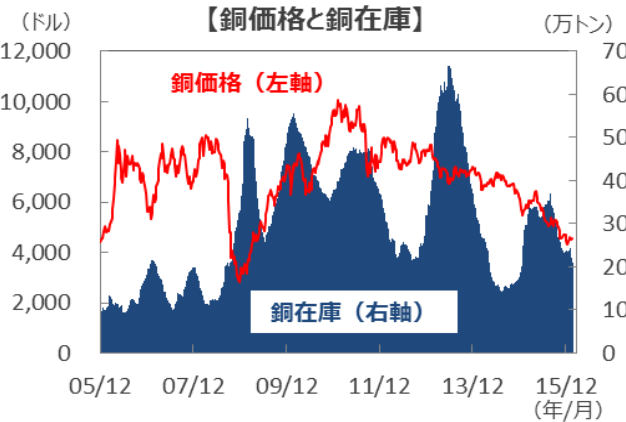
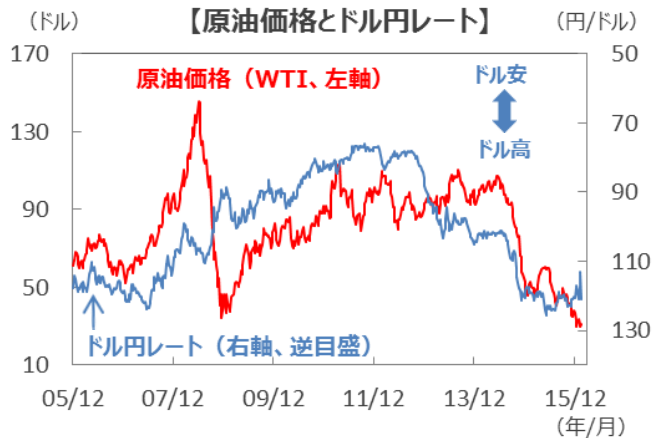
- 原油価格（WTI）は年明け後も下落傾向となり、1バレルあたり30ドル前後と約13年ぶりの安値水準で推移しています。世界景気や産油国の協調に不透明感が強まり、需給見通しの悪化につながっていることが背景です。
- 価格の大幅下落により北米で急増したシェールオイルの生産は減少し始めていますが、中東などの産油国では石油収入を増産でカバーする動きが見られるうえ、今後はイランの原油輸出再開が予想されるなど供給過剰の状態が継続すると思われます。

**ポイント2 非鉄市況も軒並み安
ただし銅の在庫は減少傾向に**

- 銅価格も下落しており、2011年のトン当たり1万ドル超の水準から、現在は半値以下の4,500ドル前後の水準で取引されています。銅以外の非鉄金属も軒並み価格は下落してます。
- 需給に関しては、生産面では高コスト鉱山の閉鎖や減産が進んできました。一方、需要は伸び率は鈍化していますが緩やかに増加しており、需給バランスは改善してきました。このため在庫は2015年夏以降減少傾向にあります。

今後の展開 原油は産油国の減産動向に注目、銅は中国の景気動向がカギ

- 原油については、一般に30ドル程度の価格では採算割れの油田が出て、生産量の維持は不能と言われています。短期的な需給改善には産油国の減産が不可欠と思われます。
- 既にOPEC（石油輸出国機構）とロシアなどが、協調減産を模索する動きが見られます。OPECで最大の生産量を有するサウジアラビアの動向がカギを握ると見られます。
- 銅に関しては、需給は既に改善方向にあるため、世界需要の約4割を占める中国の景気動向が市況のポイントになりそうです。



（注）データはいずれも2005年12月30日～2016年2月18日（週次）。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年 2月 5日 **メキシコの金融政策（2016年2月）**
2016年 1月28日 **米国の金融政策（2016年1月）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。